

市制施行15周年を迎えて

常陸大宮大使からのメッセージ (五十音順・敬称略)

台風19号の被害に遭われた市民の皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。
常陸大宮大使一同、被災された皆様のご一日も早いご再建をお祈りいたします。

常陸大宮の自然に生かされて



陶芸家 菊地 弘

東京生まれの私ですが、御前山地区に窯を築いて38年になります。地域の方々にお世話になりながら、山や川に恵まれた自然豊かな暮らしの中から生まれるイメージを大切に

日々、土と炎に向い合い陶芸作品を作っています。作品は笠間・水戸をはじめ東京、また最近は海外からも声をかけていただき、ギャラリーや百貨店で販売させていただいています。これからも陶芸を通じて常陸大宮市の魅力を発信できるよう努めていきたいと思っています。

豊かな自然が育んできた文化



舞踊家 堀 馨予

72年に一度の金砂大祭礼に魅せられて東京から移り住み20年。地域の方たちの協力で始めた村祭り・楽舞も今年で13回。96歳のダンサーは今も現役主役です。多くの文化財を所有

している常陸大宮市、その財産を活用して「鏡岩」「いずみ」といった舞踊作品を制作してまいりました。これからも常陸大宮市にしかない舞踊作品を世界に向けて発信してまいります。

日本一鮎の捕れる里？



慶應義塾大学名誉教授

弁護士 小林 節

自己紹介が必要なときに「常陸大宮大使」と加えると、東京の人は必ず「どんなところ？」と尋ねてくる。そこで三次市長の言葉を思い出して、「日本一鮎の捕

れる那珂川と日本二鮎の捕れる久慈川が交わる場所」だと言うことにしている。すると誰もが「行ってみたい」と言う。そして、「今度、一緒に」と言い合っていて、まだ実現していない。(笑)

市の存在価値と新しい魅力の創造・発信を！



元常陸大宮市副市長

前田 尚利

令和の新時代・合併15周年を迎え、市の存在価値や多方面の方々にご認識いただける新しい魅力を創り出し、大いに発信し、市政発展に大きく寄与し、市民の皆様のご幸福、ひいては常陸大宮市を故郷と思う人々に更に誇りとなるよう心からご期待申し上げます。

また、若者の皆様には、Boys, be ambitiousという言葉をご贈り、心から応援申し上げます。